



金子中だより

令和6年3月25日 第16号
入間市立金子中学校 校長 今泉大二郎



67名の卒業生が新たな道を歩み始めました

3/15(金)、本校の第77回卒業証書授与式が挙行されました。当日は、大変お忙しい中、入間市長 杉島理一郎 様、入間市教育委員会教育部副参事 金岡広道 様、入間市議会議員 双木小百合 様、末次正 様をはじめ多くの地域の方々にご来賓としてご臨席を賜り、また、多くの保護者の皆様にもご来場いただき、卒業生の成長した姿をご覧いただきました。

3年前、未だ新型コロナウイルスが猛威を振るっている中、現3年生は本校に入学してきました。入学式には2・3年生の姿はなく、新入生と教職員のための少し寂しいスタートでした。内容が縮小されたり、無くなってしまった学校行事や部活動の大会、演奏会、発表会。人と向き合わずに会話を制限された給食。日常化したマスク生活。3年間のうちの半分以上の時間がコロナによる制限を受け、窮屈な学校生活を送ったのが今回の卒業生だったように思います。

そんな窮屈な学校生活の中でも、前を向き、最上級生として金子中学校を引っ張っていった卒業生。制限の多い中でもできることはないかと模索し、できることに全力を注いでくれた卒業生。中学生という非常に多感な時期、心身共に大きく成長する3年間にちょうどコロナが重なってしまい、本当に悔やまれます。

ただ、過ぎたことを嘆いてもどうにもなりません。この異例の中学校3年間を立派に過ごしてくれた卒業生です。今後の自分の人生を明るく前向きに過ごしてくれるはずです。いつかまた、中学校を訪れる時があれば、元気な姿を見せてください。

今、世界ではいろいろなことが起こっています。私たちは先行きの見えない世の中を生きていることを実感します。これから日本経済はどうなっていくのか。私たちの平和で安全な生活は維持できるのか。もし首都直下型地震が起きたら……。考えただけでもきりがありません。ただ、このような世の中であっても夢を持って自らの未来を切り開いて行ってほしいと強く感じます。限りない可能性に満ちた67名の卒業生のみなさんそれぞれが、さらなる成長を遂げ、幸せな人生を歩んでいってくださることを心から願います。

卒業式 校長式辞より（抜粋）

さて、卒業生の皆さんが、いよいよこの金子中学校を巣立つ時が来ました。皆さんの希望に満ちた門出にあたり、はなむけの言葉として一つ話をします。「与えられた場所で頑張る」という話です。

みなさんは「夢」を持っていますか。夢を持って生きるということは、その人の人生をより豊かにするということだと思います。いつも夢を意識していれば夢に関する情報が得られ、夢に近づくことができるともいわれます。ただ本当に、毎日、夢を意識して、叶うことを信じて、練習や準備をしていれば、絶対に夢は叶うのでしょうか。

残酷な言い方かもしれませんが、世の中はそんなに甘くはありません。もしかすると、思い通りにならないことの方が多いかもしれません。それでも夢を叶えたいと思うなら、「一度や二度の失敗で諦めないこと。何度も何度も挑戦すること。」それが大事だと思います。

しかし、何度挑戦しても叶わない夢もあるでしょう。そんな時、まだまだ挑戦するのか、あきらめて他の夢を見つけるのかと悩むことになります。そこでは「後悔しない方を選ぶ」「自分が納得をした方を選ぶ」ということが大事だと思います。

夢を描くにも分かれ道があって、どうするか選択しなければならない時、自分に問いかけ、後悔しない方を選んでいってほしいと思います。

どうしても叶わない夢に出会ったとき、例えば希望していた学校に行けなかったり、思い通りの仕事に付けなかったりすることもあると思います。夢を手放したとき、いじけたり、落ち込んだり、人生どうでもいいやと思ってしまうのは、とても残念なことです。

そんなとき、「与えられた場所で頑張る」ということがとても大事です。与えられた場所で頑張っていると、次の夢が見つかることがあります。愚痴や文句を言わず、一生懸命に活動しているあなたの姿を見た人が、次の夢の扉を用意してくれることもあるでしょう。

夢が叶わなかったときのあなたの考え方や姿勢が、その先の人生に大きく影響するのだと思います。

これから、答えが一つではない複雑な世の中を生きていくみなさん。たくさんの夢を思い描いて、時には叶わない夢と向き合い、時には夢をいろいろな形に変化させて、充実した人生を送ってほしいと思います。この金子の地で生まれ育ったみなさん。自分の夢を実現させるために、金子を離れる人も多いかと思っています。希望に満ちた人生。成功をお祈りしています。そしてまたいつの日か、みなさんに会えることを楽しみにしています。



新3年生、新2年生として（3/18の臨時全校朝会より）



さて、3年生が卒業した今、金子中学校の顔は2年生ということになります。言い換えれば、2年生の発言、行動が保護者や地域の方々に大きく影響していきます。人間は、「自分は何をすべきなのか」ということを自覚すると顔つきも変わってきます。それと同時に行動も変わってきます。ぜひ、2年生には、金子中学校の最上級生としての自覚を持ってもらいたいと思います。大丈夫です。君たちにはそれができます。

そして1年生。もうすぐ後輩が入ってきます。君たちも先輩と呼ばれるようになります。ぜひ後輩に慕われる、面倒見のいい先輩になってください。と同時に、先輩である2年生をサポートしてあげてください。

今日からまた、金子中学校の新しい歴史が綴られていきます。その主役はここにいるみなさんです。その日その日を一生懸命頑張れる生徒、自分に試練を与え、それを乗り越えることができる生徒になってほしいと願っています。君たちならできるはずです。大いに期待しています。

この春休みを新学年への充電期間と捉え、良い準備をして、4月8日には、新たな出会い新たな環境の中で、良いスタートを切りましょう。4月からの新しい金子中学校に期待しています。